

大学での健康管理を仕事にして28年が過ぎました。私は、この3月に一応定年となりましたが、色々な片付けが残っているので、あと少し仕事をさせてもらえることになりました。

これを機会に自分の反省も含め、振り返りをしてみました。

自分がたどってきた道は大体三期に分けられるかなと思います。

一期・・・広島県保健管理担当学会の設立当時

各大学一世代前の方が中心に、「もっと連携をして仕事を充実させたい」と県内の大学に呼びかけられました。私はその当時一番年下で、先輩方にくっついて準備会に参加しました。規約がきまり、年一回の研修会が楽しみになりました。研修会だけでは足りなくて、夏休みには各大学の保健室を見学に行ったり、自分が困っている問題を一緒に考えてもらったりしました。中四国や全国の研修会に参加する時はホテルの一室でなやみ相談をしたり、観光地めぐりもしました。

二期・・・「県内の学生に同等の健康情報が与えられないか」と考えて、ホームページを立ち上げました。担当者一人一人が原稿作りをし、パソコンの管理者ができるほどの腕前を持ったAさんにおんぶに抱っこで立ち上げてもらいました。この立ち上げの日付は私の息子の骨髄移植当日になっています。もしかしたら命がなくなるかも知れないということで、息子の生きた記念にAさんは誰にも相談せずそっと日付を入れてくださいました。このことでは、やさしさに涙したばかりでなく、公私共に皆さんに支えられていることを実感しました。このHPは今も「大学生活を健康に過ごすために」という項目で役立っています。

三期・・・健康管理センターの充実

健康管理センターとして、移転する計画が持ち上がった時、思いっきり自分の理想の部屋を作ってもらおうと意見を出しました。写真にあるように部屋の機能を「処置」「事務」「相談」「休養」「教育」と分けて使えるように考えました。此処にきた皆さんの第一声は「広いねえ」で、前学長は「自分の部屋より広い！」と驚かれました。学生たちは大変気に入って、不適応気味の人たちの居場所としても上手に使っています。

女子大学なので「健康的な女性として生きていけるように」と以前から努力をしてきましたが、最近健康診断結果を資料として栄養学科の先生と連携をしています。

まず「一人暮らしの新生入生に料理教室」を計画しました。年一回開催です。

大学院生の「BMIが低い学生の栄養指導」という論文に協力してから、その延長で2年前からはBMIのデーターから肥満とやせの食事指導を栄養学科の教員が取り組んでくださるようになりました。

長く同じところで仕事をしているとマンネリ化しやすいですが、段々顔を覚えてもらって、仕事上の連携がうまく進むということがあるなあというのが感想です。

大過なくすごすことができたのは周囲のみなさまのお心遣いがあったからと心より感謝している今日この頃です。



健康管理センターからのキャンパス風景

入口



室内



性教育用資料



胎児人形

